

『紡ぐ』

2021.8.1 第26号

発行 教育相談室「あした塾」

能登はやさしい 土までも



沖波地火
から甲. 大山を眺

「能登はやさしい土までも。ほとんどの人が知
ていない言葉だ」と思っています。1696年(元禄9年)に
能登の地を巡った加賀藩士・浅田久敬の「三日目の
日記」に、この言葉が書き記されているとのこと。

(レノイス協同センターバスより) そして 2016年に能登
の地を訪れた方が自身のブログに「厳しい自然の中で生きるためには、他人に気遣い、ま
た、他人と手を取り合っていかなければ冬將軍には太刀打ちできないのだ。『能登はやさ
しい土までも』。日本中がそうあってほしいと
つくづく思う。」と書いている。

シラスリボン プロジェクト

この福の今、能登の地に住む私たちがそ
の言葉の深さを考えてみませんか？



各新聞を報
道されていますが、穴水町
商工会女性部が取り組ん
でいる活動に「シラスリボ
ンプロジェクト」があります。

これは、新型コロナウイルス

で生まれた差別や偏見をなくす活動です。「たいてい
「おやえり」「ありがとう」と言い合える町、誰もが笑
顔を暮らせる町であってほしい」という願いもあります。
穴水商工会女性部の協力を得て、穴水中学校生
徒会もこの活動を進めています。先頃、1360個余
りのシラスリボンを作り、韓国、韓国水産庁に配りま
した。これと役場、公民館、社会福祉協議会、
商店街などに配布し、活動を広げて行く予定です。

このシラスリボンプロジェクトは愛媛県のある方から始
めた活動ですが、これを全国に広まり、大きな波に
なしていけば...と思います。

新中居八景 作品募集

「新中居八景創造会議」は先
「新中居八景」を決めました。その
新中居八景を題材にした短文、能
句、詩、絵画、写真、書などを募集
しています。ぜひ参加してください。
締め切りは10月15日です。

新中居八景は (阿波地す
住吉公民館)
「地福院羅漢樹」「さとの直・墓石群」
「白山借景」「月崎・立山連峰」「瑞鳳
山からの中居集落」「中居虹」「ボウ
待檣」「宮崎寒雄ふるさと茶会」です。

穴水再発見

桂岩 馬蹄石

穴水町の桂岩地内に「桂岩坂」という所があります。

桂岩在所から下唐川在所まで高低差200m、徒歩60分程の峠越えの急坂です。炭俵4俵(約60kg)を背負い町まで買い出しに往き来した道です。

その往來には、とて難儀したといふことと、「桂岩坂」と呼ばれるようになったとか...

この坂の途中に馬と狼が格闘した結果、その蹄の跡や爪跡がついた「馬蹄石」と呼ばれる大きな石があります。実際に見てみると、馬の蹄の跡が確認できました。この「馬蹄石」、2007年の能登半島地震で山の上から転げ落ち、今の位置にあります。そのため、狼の爪跡は下の方になり、残念ながら見ることはできませんでした。

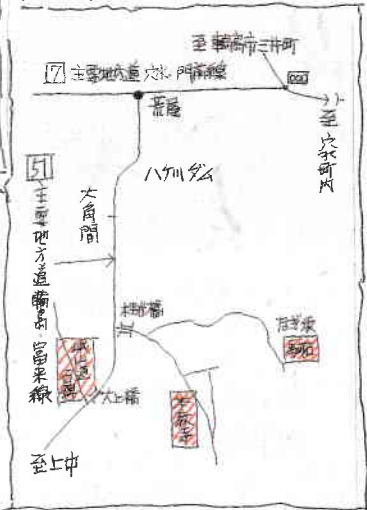
桂岩本教寺の葛城真証住職の隣では小さい頃からの遊び場になっていた所なので、その爪跡ははっきり見えていたとのことでした。



(「馬蹄石」を見る葛城真証さん)

馬蹄石伝説

桂岩在所の川原さんの馬と狼が格闘したとき、その闘いがあまりにも激しかったため、その場にあった大きな石に力が入ったとき、馬の蹄の跡や狼の爪跡がついてしまった。その石を「馬蹄石」と呼んでいます。



(本教寺の梵鐘)

本教寺の梵鐘と平和

桂岩本教寺にある梵鐘。ちやんとした歴史があります。あの太平洋戦争中、砲弾や兵器生産のための銅、鉄資源の不足を補うため、政府は一般市民の日用品とともに寺院の梵鐘を供出させました。全国の80~90%が供出されたといわれています。しかしこの本教寺の梵鐘は供出を免れました。町内(町)若者永太郎さんの証言では「文化的価値」によるのだと。

この梵鐘が2度と戦争で壊されなかったための平和の象徴であってほしいものです。